

四半期報告書

(第38期第3四半期)

総合商研株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

総合商研株式会社

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【経営上の重要な契約等】	5
3 【財政状態及び経営成績の分析】	5
第3 【設備の状況】	7
第4 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【株価の推移】	9
3 【役員の状況】	9
第5 【経理の状況】	10
1 【四半期財務諸表】	11
2 【その他】	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	21

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 平成21年6月10日

【四半期会計期間】 第38期第3四半期(自 平成21年2月1日 至 平成21年4月30日)

【会社名】 総合商研株式会社

【英訳名】 SOUGOU SHOUKEN CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 加藤 優

【本店の所在の場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【電話番号】 011(780)5677

【事務連絡者氏名】 常務取締役企画管理本部長 原田 正之

【最寄りの連絡場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【電話番号】 011(780)5677

【事務連絡者氏名】 常務取締役企画管理本部長 原田 正之

【縦覧に供する場所】 株式会社ジャスダック証券取引所
(東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第38期 第3四半期 累計期間	第38期 第3四半期 会計期間	第37期
会計期間	自 平成20年8月1日 至 平成21年4月30日	自 平成21年2月1日 至 平成21年4月30日	自 平成19年8月1日 至 平成20年7月31日
売上高 (千円)	8,170,603	2,045,352	9,364,479
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	395,052	△162,930	381,429
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失(△) (千円)	220,414	△102,427	216,954
持分法を適用した 場合の投資損失 (千円)	21,051	6,861	28,354
資本金 (千円)	—	411,920	411,920
発行済株式総数 (株)	—	3,060,110	3,060,110
純資産額 (千円)	—	1,886,940	1,768,092
総資産額 (千円)	—	6,188,420	5,727,277
1株当たり純資産額 (円)	—	617.07	578.20
1株当たり四半期 (当期)純利益又は四半 期純損失(△) (円)	72.08	△33.50	70.95
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	7.00	—	15.00
自己資本比率 (%)	—	30.5	30.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	582,520	—	666,737
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△275,406	—	△305,858
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	107,484	—	△220,485
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	—	1,434,185	1,019,587
従業員数 (人)	—	346	339

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在せず、また、当第3四半期会計期間においては1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

提出会社の状況

平成21年4月30日現在

従業員数(人)	346(40)
---------	---------

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数であります。
2. 従業員数欄の()は、外書で臨時雇用者の当第3四半期会計期間の平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
3. 臨時雇用者には、季節工、パートタイマーの従業員を含み、派遣社員は除いております。
4. 臨時雇用者が当第3四半期会計期間において261名減少しておりますが、その理由は年賀状印刷取扱期間終了による季節雇用者の減少によるものであります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

生産、受注及び販売の状況につきましては、以下のとおり事業部門別に記載しております。

なお、当社では年賀状印刷事業については、第2四半期会計期間に売上が集中し、第3四半期会計期間はレポートの精算が中心の為、生産・受注・販売がほとんど発生しないという季節的変動があります。

(1) 生産実績

当第3四半期会計期間における生産実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	生産高(千円)
商業印刷事業	1,584,820
年賀状印刷事業	768
合計	1,585,589

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。
2. 金額は、販売価格によっております。
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第3四半期会計期間における受注実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
商業印刷事業	1,598,837	348,819
年賀状印刷事業	768	—
合計	1,599,606	348,819

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期会計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	内訳	販売高(千円)
商業印刷事業	印刷売上	1,590,644
	折込売上	439,600
	合計	2,030,245
年賀状印刷事業	印刷売上	△1,361
	折込売上	—
	合計	△1,361
その他事業	その他売上	16,469
合計		2,045,352

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。
2. 相手別の販売実績が総販売実績の10%以上となる主要な販売先はありません。
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期会計期間におけるわが国経済は、世界的な景気後退、金融危機などの影響を受け、企業収益や雇用情勢の悪化、個人消費の低迷などにより、景気の後退感が一段と強まりました。

また、当社が位置する広告・印刷業界におきましても、印刷用紙等の原材料価格の高止まりに加え、企業の広告宣伝費の抑制が強まる中、受注競争が激化するなど、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社は営業強化による受注拡大と内製化を中心とした徹底したコストダウンを進めてまいりました。

その結果、当第3四半期会計期間の売上高は2,045百万円となりました。

利益につきましては、売上増強及びコスト削減を進めたものの、原材料価格の高止まりと競争激化による受注単価低下、及び当四半期は年賀状印刷事業の売上発生がなく同部門の固定費のみ発生することから、営業損失は162百万円、経常損失は162百万円、四半期純損失は102百万円となりました。

事業の部門別の業績は次のとおりであります。

(商業印刷事業)

商業印刷事業につきましては、取引先の広告宣伝費の抑制が続く中、既存取引先の受注拡大と新規営業による受注獲得を推進いたしました。その結果、北海道地区の折込チラシを中心に受注が増加し、売上高は2,030百万円となりました。

(年賀状印刷事業)

年賀状印刷事業につきましては、季節的に第2四半期会計期間に売上が集中し、当第3四半期会計期間はリバートの精算が中心のため、売上高は△1百万円となりました。

(その他事業)

その他事業につきましては、北海道内の3店舗のプリントハウスにおいて、DPE、オンデマンドプリント等の商品・サービスの提供を行ってまいりましたが、パソコン・デジタル技術の浸透により経営環境は依然として厳しく、売上高は16百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末における総資産は、6,188百万円となり、前事業年度末に比べ461百万円増加しました。これは主に現金及び預金が414百万円、受取手形及び売掛金が51百万円、原材料が88百万円、その他有形固定資産が65百万円増加、仕掛品が38百万円、投資有価証券が76百万円減少したこと等によるものです。

負債合計は4,301百万円となり、前事業年度末に比べ342百万円の増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金が80百万円、未払法人税等が84百万円、長期借入金が164百万円増加したこと等によるものです。

純資産合計は1,886百万円となり、前事業年度末に比べ118百万円増加となりました。これは利益剰余金が174百万円増加、その他有価証券評価差額金が55百万円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第2四半期会計期間末に比べ139百万円減少し、1,434百万円となりました。当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は714百万円となりました。これは主に仕入債務の減少323百万円、税引前四半期純損失168百万円等により資金が減少したのに対して、売上債権の減少643百万円、年賀はがき等の立替金の減少531百万円、減価償却費95百万円等により資金が増加したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は59百万円となりました。これは主に有形・無形固定資産等の取得による支出65百万円等により資金が減少したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は793百万円となりました。これは短期借入金の純減額600百万円、長期借入金の返済178百万円、配当金の支払15百万円により資金が減少したことによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期会計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当社では当第3四半期会計期間における研究開発活動として、味覚センサーを活用したデータ分析をすすめ、味の測定・解析・比較を中心とした研究活動を実施しており、これらは商業印刷事業における販売促進支援活動及び取引先に対する提供情報として活用しております。

以上の活動により、商業印刷事業において、当第3四半期会計期間における研究開発費は1百万円となりました。なお、年賀状印刷事業及びその他事業においては特記すべき事項はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期会計期間において、第2四半期会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、当第3四半期会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、売却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成21年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年6月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,060,110	3,060,110	ジャスダック 証券取引所	単元株式数は1,000株であります
計	3,060,110	3,060,110	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年2月1日～ 平成21年4月30日	—	3,060,110	—	411,920	—	441,153

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日である平成21年1月31日現在で記載しております。

① 【発行済株式】

平成21年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,055,000	3,055	—
単元未満株式(注)	普通株式 3,110	—	—
発行済株式総数	3,060,110	—	—
総株主の議決権	—	3,055	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式200株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成21年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 総合商研株式会社	札幌市東区東苗穂二条三 丁目4-48	2,000	—	2,000	0.07
計	—	2,000	—	2,000	0.07

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	4月
最高(円)	360	337	315	319	310	285	282	280	315
最低(円)	328	310	245	304	270	260	251	260	290

(注) 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期会計期間（平成21年2月1日から平成21年4月30日まで）及び当第3四半期累計期間（平成20年8月1日から平成21年4月30日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年4月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,434,185	1,019,587
受取手形及び売掛金	1,217,901	1,166,268
商品	4,240	4,226
製品	2,820	4,204
原材料	231,463	142,640
仕掛品	1,813	40,237
その他	105,837	102,258
貸倒引当金	△11,315	△11,852
流動資産合計	2,986,946	2,467,570
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	744,844	777,748
土地	971,954	971,954
その他（純額）	542,945	477,317
有形固定資産合計	※1 2,259,744	※1 2,227,021
無形固定資産	159,669	187,835
投資その他の資産		
投資有価証券	373,129	449,726
関係会社株式	154,000	142,000
その他	286,840	294,406
貸倒引当金	△31,909	△41,282
投資その他の資産合計	782,060	844,850
固定資産合計	3,201,474	3,259,707
資産合計	6,188,420	5,727,277
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,103,073	1,022,223
短期借入金	※2 628,656	※2 646,030
未払法人税等	144,706	59,783
賞与引当金	24,358	16,454
その他	345,190	272,674
流動負債合計	2,245,985	2,017,165
固定負債		
長期借入金	1,477,390	1,312,605
その他	578,104	629,414
固定負債合計	2,055,494	1,942,019
負債合計	4,301,480	3,959,185

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年4月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	411,920	411,920
資本剰余金	441,153	441,153
利益剰余金	1,011,817	837,271
自己株式	△1,028	△1,028
株主資本合計	1,863,863	1,689,317
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	23,076	78,774
評価・換算差額等合計	23,076	78,774
純資産合計	1,886,940	1,768,092
負債純資産合計	6,188,420	5,727,277

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成20年8月1日 至平成21年4月30日)
売上高	8,170,603
売上原価	5,597,204
売上総利益	2,573,399
販売費及び一般管理費	
給料及び手当	824,958
貸倒引当金繰入額	4,100
賞与引当金繰入額	20,634
その他	1,323,514
販売費及び一般管理費合計	2,173,207
営業利益	400,191
営業外収益	
受取利息	282
受取配当金	2,458
受取賃貸料	20,681
作業屑売却益	11,639
その他	12,510
営業外収益合計	47,573
営業外費用	
支払利息	52,076
その他	636
営業外費用合計	52,712
経常利益	395,052
特別利益	
固定資産売却益	317
固定資産受贈益	10,984
その他	2,157
特別利益合計	13,459
特別損失	
固定資産売却損	519
固定資産除却損	2,456
投資有価証券評価損	16,862
特別損失合計	19,839
税引前四半期純利益	388,672
法人税、住民税及び事業税	174,440
法人税等調整額	△6,182
法人税等合計	168,257
四半期純利益	220,414

【第3四半期会計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年4月30日)
売上高	2,045,352
売上原価	1,622,619
売上総利益	422,733
販売費及び一般管理費	
給料及び手当	250,932
賞与引当金繰入額	13,756
その他	320,990
販売費及び一般管理費合計	585,678
営業損失(△)	△162,945
営業外収益	
受取利息	72
受取賃貸料	6,842
作業屑売却益	3,034
その他	4,187
営業外収益合計	14,137
営業外費用	
支払利息	14,124
その他	0
営業外費用合計	14,123
経常損失(△)	△162,930
特別利益	
貸倒引当金戻入額	692
特別利益合計	692
特別損失	
固定資産除却損	1,505
投資有価証券評価損	4,809
特別損失合計	6,314
税引前四半期純損失(△)	△168,553
法人税、住民税及び事業税	△66,960
法人税等調整額	835
法人税等合計	△66,125
四半期純損失(△)	△102,427

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成20年8月1日 至平成21年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	388,672
減価償却費	263,134
受取利息及び受取配当金	△2,741
支払利息	52,076
売上債権の増減額 (△は増加)	△53,274
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△46,406
仕入債務の増減額 (△は減少)	80,849
その他	33,782
小計	716,094
利息及び配当金の受取額	2,721
利息の支払額	△47,041
法人税等の支払額	△89,253
営業活動によるキャッシュ・フロー	582,520
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△218,461
無形固定資産の取得による支出	△25,943
投資有価証券の取得による支出	△18,962
関係会社株式の取得による支出	△12,000
その他	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△275,406
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△100,000
長期借入れによる収入	700,000
長期借入金の返済による支出	△452,589
配当金の支払額	△39,926
財務活動によるキャッシュ・フロー	107,484
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	414,598
現金及び現金同等物の期首残高	1,019,587
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,434,185

【四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期累計期間 (自 平成20年8月1日 至 平成21年4月30日)
会計処理基準に関する事項の変更	(重要な資産の評価基準及び評価方法の変更) たな卸資産 「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を第1四半期会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。 この変更による当第3四半期累計期間の損益に与える影響はありません。

【簡便な会計処理】

	当第3四半期累計期間 (自 平成20年8月1日 至 平成21年4月30日)
1 固定資産の減価償却費の算定方法	減価償却の方法として定率法を採用している固定資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
2 たな卸資産の評価方法	当第3四半期会計期間末におけるたな卸高の算出に関して、実地たな卸を省略し、前事業年度末に係る実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。
3 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目を重要なものに限定する方法によっております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降の経営環境に著しい変化がないと認められるので、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに、前事業年度末からの重要な一時差異の変動を加味したものを使用する方法によっております。

【四半期財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期累計期間(自 平成20年8月1日 至 平成21年4月30日)

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期累計期間 (自 平成20年8月1日 至 平成21年4月30日)
(有形固定資産の耐用年数の変更) 当社の機械装置の耐用年数については、第1四半期会計期間より、法人税法の改正を契機として見直しを行い、改正後の法定耐用年数に変更しております。 これにより、従来の方法によった場合と比較して、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益は、それぞれ5,771千円減少しております。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

当第3四半期会計期間末 (平成21年4月30日)	前事業年度末 (平成20年7月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額 3,222,335千円	※1 有形固定資産の減価償却累計額 3,041,367千円
※2 当座貸越契約 運転資金の効率的な調達を行うため、当座貸越契約を締結しております。 当四半期会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりです。 当座貸越契約の総額 3,300,000千円 借入実行残高 一十千円 差引額 3,300,000千円	※2 当座貸越契約 運転資金の効率的な調達を行うため、当座貸越契約を締結しております。 当事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりです。 当座貸越契約の総額 3,000,000千円 借入実行残高 100,000千円 差引額 2,900,000千円

(四半期損益計算書関係)

第3四半期累計期間

当第3四半期累計期間 (自 平成20年8月1日 至 平成21年4月30日)
当社では、第1四半期は年賀状印刷事業の資材・販促費等の先行支出により利益が低下、第2四半期は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末年始商戦の折込広告の大量受注により売上・利益共に増加、第3・第4四半期は年賀状印刷事業の売上がなく固定費のみ発生することにより総体の売上高に対する経費割合が高くなるため利益が低下するという季節的変動があります。

第3四半期会計期間

当第3四半期会計期間 (自 平成21年2月1日 至 平成21年4月30日)
当社では、第1四半期は年賀状印刷事業の資材・販促費等の先行支出により利益が低下、第2四半期は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末年始商戦の折込広告の大量受注により売上・利益共に増加、第3・第4四半期は年賀状印刷事業の売上がなく固定費のみ発生することにより総体の売上高に対する経費割合が高くなるため利益が低下するという季節的変動があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間 (自 平成20年8月1日 至 平成21年4月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 1,434,185千円 現金及び現金同等物 1,434,185千円

(株主資本等関係)

当第3四半期会計期間末(平成21年4月30日)及び当第3四半期累計期間(自平成20年8月1日至平成21年4月30日)

- 1 発行済株式の種類及び総数
普通株式 3,060,110株
- 2 自己株式の種類及び株式数
普通株式 2,200株
- 3 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。
- 4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年10月28日 定時株主総会	普通株式	24,463	8	平成20年7月31日	平成20年10月29日	利益剰余金
平成21年3月12日 取締役会	普通株式	21,405	7	平成21年1月31日	平成21年4月14日	利益剰余金

- (2) 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

- 5 株主資本の著しい変動に関する事項
該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第3四半期累計期間(自平成20年8月1日至平成21年4月30日)

所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当第3四半期会計期間末におけるリース取引残高は前事業年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載していません。

(有価証券関係)

当第3四半期会計期間末(平成21年4月30日)

その他有価証券で時価のあるものが、事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前事業年度末日に比べて著しい変動が認められます。

区分	取得原価(千円)	四半期貸借対照表計上額(千円)	差額(千円)
株式	281,408	328,632	47,224
合計	281,408	328,632	47,224

(注) 株式の減損にあたっては、時価が取得原価に比べ50%以上下落したもの及び時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落しているもののうち時価の回復可能性があると判断されるものを除き、減損処理を行っております。

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当第3四半期累計期間において減損処理を行い、投資有価証券評価損16,862千円を計上しております。

前事業年度末(平成20年7月31日)

その他有価証券で時価のあるもの

区分	取得原価(千円)	四半期貸借対照表計上額(千円)	差額(千円)
株式	279,308	407,228	127,920
合計	279,308	407,228	127,920

(注) 株式の減損にあたっては、時価が取得原価に比べ50%以上下落したもの及び時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落しているもののうち時価の回復可能性があると判断されるものを除き、減損処理を行っております。

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当事業年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損98,676千円を計上しております。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期会計期間末(平成21年4月30日)

ヘッジ会計の特例処理が適用されているもの以外のデリバティブ取引はありませんので、記載を省略しております。

(持分法損益等)

第3四半期累計期間

	当第3四半期累計期間 (自平成20年8月1日 至平成21年4月30日)
持分法を適用した場合の投資損失の金額(千円)	21,051

第3四半期会計期間

	当第3四半期会計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年4月30日)
関連会社に対する投資の金額(千円)	154,000
持分法を適用した場合の投資の金額(千円)	96,563
持分法を適用した場合の投資損失の金額(千円)	6,861

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期会計期間(自平成21年2月1日至平成21年4月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期会計期間末 (平成21年4月30日)	前事業年度末 (平成20年7月31日)
1株当たり純資産額 617.07円	1株当たり純資産額 578.20円

2 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額

当第3四半期累計期間 (自平成20年8月1日 至平成21年4月30日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年4月30日)
1株当たり四半期純利益 72.08円	1株当たり四半期純損失(△) △33.50円
なお、潜在株式会社調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式会社調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第3四半期累計期間 (自平成20年8月1日 至平成21年4月30日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年4月30日)
四半期損益計算書上の四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	220,414	△102,427
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	220,414	△102,427
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式の期中平均株式数(株)	3,057,910	3,057,910

(重要な後発事象)

当第3四半期会計期間(自平成21年2月1日至平成21年4月30日)

該当事項はありません。

2【その他】

第38期(平成20年8月1日から平成21年7月31日まで)中間配当については、平成21年3月12日開催の取締役会において、平成21年1月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 21,405千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 7円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成21年4月14日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 6月10日

総合商研株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 廣 瀬 一 雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 森 茂 伸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている総合商研株式会社の平成20年8月1日から平成21年7月31日までの第38期事業年度の第3四半期会計期間(平成21年2月1日から平成21年4月30日まで)及び第3四半期累計期間(平成20年8月1日から平成21年4月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、総合商研株式会社の平成21年4月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 平成21年6月10日

【会社名】 総合商研株式会社

【英訳名】 SOUGOU SHOUKEN CO., LTD

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 加藤 優

【最高財務責任者の役職氏名】 —

【本店の所在の場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【縦覧に供する場所】 株式会社ジャスダック証券取引所
(東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役会長加藤 優は、当社の第38期第3四半期(自 平成21年2月1日 至 平成21年4月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。